

教育広報

県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町2番16号

電話024-521-2813

発行者 阿部 央

巻頭言

2020年に思うこと

県北教育事務所 業務次長兼学校教育課長 丹治 光夫

一昨年2018年は、「戊辰150年」ということで、全国各地で記念イベントが開催され、福島県でも県立博物館において「戊辰150年展」が開催されました。(西日本では「維新150年」と呼ばれていたらしいです。)会津、仙台、新潟、米沢の各博物館を巡ってみて、それぞれの地において、義を貫き、多くの悲劇がおき、尊い命が数多く失われていったことを改めて感じました。

明治政府より、1872年(明治5年)8月に、学制が發布され、今日まで約150年もの間、日本全国で国民皆学の精神のもと、学校教育が展開されてきました。親が子に対して教育を行うのではなく、親に代わって子どもの心に灯をともし、心を耕すという意味から校名を「代耕小学校」と名付けて学校教育をスタートさせた地域もあったと聞いたことがあります。日本全国でその地域の発展を願い、未来の担い手である子どもたちに幸あらんことを願って多くの学校ができていったのだと思います。

さて、今年2020年は、東京2020オリンピック・パラリンピック開催の年であり、我が福島県でも野球・ソフトボールが開催され、各学校においても、オリパラ教育が展開されているところです。4年に一度のスポーツの祭典であり、スポーツそのものがもつ素晴らしさやひたむきに努力する選手の姿を見て、感動を味わいたいと思っています。選手たちの姿を福島の子どもたちが間近に見ることで、将来はあの選手のようにになりたいなどと憧れをもつものと期待しています。私自身も小学校の時、札幌オリンピックのテレビ中継を当時の担任の先生が教室で見せてくれたのを覚えています。すかさず、雪積もる堤防に出かけ、ジャンプ台を作ってまねをしたものでした。(さすがに、前回の東京オリンピックの記憶はありません。)聖火リレーは、2020年3月26日にJヴィレッジを出発します。県内各地でリレーランナーも決まり、地域を盛り上げてほしいものです。

また、2020年は、小学校における新学習指導要領全面実施の年であり、翌年2021年は中学校においても全面実施となります。「主体的・対話的で深い学び」俗に言うアクティブ・ラーニングによる授業が展開されていくこととなります。「主体的・対話的で深い学び」の「対話的」という文言に関心をもった方も少なからずいらっしゃるのではないかと思います。「対話」とは学習者の行動を表す言葉であり、子どもたちにどのような「対話的」な学びをさせるのか、難しいところです。「対話的」な学びの本質を学校教育に関わるすべての方々と追求していきたいと思っています。

パラリンピック後の福島県に期待することとして、パラリンピックの選手の活躍や姿から障がいのある人もそうでない人もお互い理解し合い、尊敬し合う関係の醸成が挙げられます。今後、県北地区に2つの特別支援学校ができます。地域の子どもたちにとってインクルージョンの機運の高まりは大切です。

これからの県北地域や福島県、広くは日本の40年後、50年後を背負って、その地域を発展・成長へと導いてくれるのは、間違いなく今、幼稚園、小・中学校、特別支援学校、高等学校に通っている子どもたちであると思います。その子どもたちが、将来、直面するかもしれない課題、その課題がたとえ地球的規模の課題であっても、臆することなく課題解決に取り組んでいけるように、その素地を育てていくことこそが今日の学校教育に携わる者すべてが担う使命ではないかと思うのです。2020年が大きな転換点になるような気がしてなりません。



TOKYO 2020

TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

HOST VENUE

MIRAITOWA
ミライトワSOMEITY
ソメイティ

令和元年度第48回福島県教職員研究論文入賞者表彰式

今年度、県北域内では8点の応募がありました。いずれの論文も、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、子どもたちが自らの課題を明確にしながら学習し、解決に取り組む姿が示されていました。受賞、応募された個人団体は次のとおりです。

【特選】 ◇個人研究 学習指導(体育科) 福島市立大笹生小学校 教諭 佐藤 悠
＜運動する楽しさを味わい、主体的に運動する児童を育てる体育指導を目指して＞
～「思考・判断」へアプローチする授業づくりを通して～

【入選】 ◇個人研究 特別支援教育 本宮市立本宮第二中学校 教諭 最上 俊彦
＜交流及び共同学習で生き生きと学ぶ自閉症・情緒障がい学級の生徒の育成＞
～共生社会を目指したインクルーシブ教育の推進～

＜応募者＞

- ◇個人研究 学習指導 福島市立矢野目小学校 (算数科) 教諭 佐藤 翔英
- ◇個人研究 保健指導 福島市立大笹生小学校 養護教諭 小坂橋綾子
- ◇個人研究 学習指導 福島市立福島第四中学校 (国語科) 教諭 菅野美由里
- ◇共同研究 学習指導 伊達市立保原小学校 校長 佐々木義通
- ◇個人研究 学習指導 二本松市立油井小学校 (学級活動) 教諭 工藤 宏美
- ◇個人研究 学習指導 二本松市立旭小学校 (総合的な学習) 教諭 小島 裕大



「[県北版]学校教育指導の重点」の活用を

「子どもの考えをつなぎ、深い学びを創りたい。」「振り返りの時間を確保し、学びの手応えを味わわせたい。」先生方の悩みに応える指導資料を作成しました。授業改善に御活用ください。

「総合的な学習の時間」の例

「探究的な見方・考え方」とは、各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること

【ペアやグループ・学級全体の話し合い】

児童の話し合いをコーディネートしながら合意形成を図っていきましょう。

※ 学校のビオトープについて話しているところです。

たぶん生き物はいると思うけど、最近汚れているよね。

昔はメダカなどのいるんな生き物がいたって聞いたことがあるよ。

いつ頃からあったのかな？昔はみんなで掃除をしていたのかも知らないね。

うちのお父さんが小さい時からあったって言っていたよ。

お父さん、お母さんに聞くと昔の様子がわかるかもしれないね。

テレビで池の水を抜いてきれいにするのを見たことがあるよ。

やってみよう！

「まとのめ・振り返り・新たな学び」 明利率や意欲を高める活動計画を立てましょう。

もっと生き物がいっぱいいるきれいなビオトープにしたいな。

周りに花があると見る人も喜ぶと思うよ。

もっと自衛できるビオトープにしたいね。

【課題設定】 みんなに自衛できるビオトープをつくろう。

これからどのように学習を進めるか計画を立てていきましょう。

不登校を未然に防ぐ取組の一つとして

「授業が分からない」ということが、不登校や登校しぶりの原因の一つとして挙げられています。ユニバーサルデザインによる授業づくりを行い、「分かる授業」を提供していくことで、新規の不登校児童生徒数の減少を図ることができた実践事例がありました。「授業スタンダード」においても、ユニバーサルデザインでの授業づくりを推奨しています。見通しをもって安心して学ぶことができる環境づくりを行い、すべての子どもにとって「分かる授業」を提供していくことは、すべての子どもへの合理的配慮の提供であるといえます。また、それを土台として、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもたちに、個別の支援をバランスよく行い、自己有用感、自己肯定感を育み、より一層、よさや可能性を引き出していくことが望まれます。県北教育事務所【参考資料】主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」P22・23 に資料を掲載しておりますので、御活用ください。

◆不祥事根絶、学校事故・教職員事故減少のために◆

本年度も県北教育事務所として、「不祥事ゼロ」と「学校事故・教職員事故等の減少」を重点事項に掲げ、市町村教育委員会との連携のもと、各学校に実効ある取組をお願いしてきました。各校では、不祥事ゼロを目指した実践が数多く見られました。しかし、残念ながら皆さんもご存知のとおり、3年ぶりに教育長メッセージが出されるなど、教職員の不祥事が後を絶ちません。本域内においても、わいせつ行為による懲戒免職事例が2件発生いたしました。事故においても、例年と同様の件数が発生しております。年度末を迎えるこの時期、各学校においては、年度当初に策定した「不祥事根絶のための行動計画」や昨年開催された学校事故防止対策研究協議会の内容を学校全体で再確認いただくとともに、特に次の2点に留意し、職員一人一人の危機意識の高揚に努めていただくようお願いいたします。

■SNSの利用について～信頼される教職員であり続けるために～

児童生徒や保護者と親しい関係になっていたとしても、その関係は教職員と児童生徒、教職員と保護者の関係から始まっています。SNS等で児童生徒や保護者からの相談のやりとりが続くことで「自分は頼りにされている」との思い込みが強くなり、さらには「助けてあげられるのは自分しかない」という身勝手な認識が不祥事につながります。教職員間で情報を共有し、私的なやりとりとならないようにすることが大切です。

■自動車の運転について～「ゆとり」と「集中」～

日頃から運転には十分注意していただいているとは思いますが、年間を通して交差点での交通事故が多く見られます。その要因として車間距離の狭さや気のあせり等が挙げられます。改めて「三つの10」を実践し、気持ちや時間にゆとりのある運転をお願いいたします。また、「よそ見運転」や「ながら運転」も運転に集中できないため、咄嗟の判断や運転操作が遅れます。交通事故を未然に防ぐためには、「ゆとりをもつこと」「運転に集中すること」が大切です。

ふくしまを十七字で奏でよう 絆ふれあい支援事業 ～伝えたい 想い届ける 十七字～

今年度も、たくさんご応募をいただき、ありがとうございました。県北域内では、人と人とのつながりの中から生まれた5,330組の作品が寄せられ、これまでで最多の応募数となりました。県北域内の作品をご紹介します。

- 絆部門 【最優秀賞】 パパのため あかりをつけて 帰り待つ (鳥川小学校4年 星 音羽)
ほろよいで 灯る明かりの うれしさよ (父 星 視文)
- 【優秀賞】 まにあった 洗たくぬれず 良かったね (岡山小学校6年 萩原 菜々美)
黒い雲 雨がそこまで 迫ってる (母 萩原 理恵)
- 復興部門 【優秀賞】 震災で 町くずれても さいた花 (鳥川小学校5年 中島 虎弥太)
あの時と 同じ野に咲く 小ひまわり (母 中島 綾)

地域でつながる家庭教育応援事業「家庭教育支援者地区別研修会」

11月27日(水)に福島県青少年会館において、桜の聖母短期大学の長谷川美香氏を講師に迎え、子どもや保護者の自己肯定感の形成を支援するための研修を行いました。学校関係者や地域の家庭教育支援者、保護者、教育行政担当者など、様々な立場の方々が参加し、充実した研修になりました。

参加者は、講演やグループワークなどを通して、家庭や地域における自己肯定感育成のプロセスや求められる支援観、具体的な場面での効果的なアプローチの仕方を共有することができました。



夢をかなえる県北の教育

(令和2年度版)

平成30年度～令和2年度
学校教育指導の重点全体構想
福島県教育庁県北教育事務所学校教育課

第6次福島県総合教育計画

基本理念 “ふくしまの和”で奏でる、

心豊かなたくましく美しい人づくり

主要施策 頑張る学校応援プラン

教師として大切にしたいこと
省察, 自己研鑽
そして**創造へ**

目標達成のために努力し工夫し工夫できる子ども

確かな学力

自ら課題を見付け

主体的に解決する子ども

- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり
 - ・ 「授業スタンダード」に基づく授業づくり
 - ・ 個に応じたきめ細かな指導の充実
- 主体的な学習を支える基盤づくり
 - ・ 「家庭学習スタンダード」の活用
 - ・ 「学び方」「学習規律/習慣」の確立
 - ・ 子どもの主体性を生かした読書活動の推進
- 組織的な学力向上策の推進
 - ・ 学方向上プログラム/サイインの改善と推進
 - ・ 学力調査等の結果を受けた、機能的なPDCCAサイクルの構築
- 教師の指導力向上のための体制づくり
 - ・ 目指す子どもの姿に基づいた校内研修の充実
 - ・ 「互見授業」による教員の学び合いの推進

豊かな心

ひとと関わり心を通わせながら

よりよく生活する子ども

- 心に響く道徳教育の推進
 - ・ 指導内容の重点化と指導計画の改善
 - ・ 「特別の教科 道徳」の授業の質的確保、質的転換
 - ・ 保護者や地域と連携した道徳教育の推進
- 多様な体験活動・交流活動の充実
 - ・ 学校や子どもたちの実態、発達段階等に応じた体験活動、交流活動の充実
 - ・ 望ましい勤労観、職業観を育むキャリア教育の充実
- 児童生徒理解に基づく生徒指導の充実
 - ・ 不登校の未然防止・早期発見等のための組織的な取組
 - ・ 「いじめ見逃しゼロ」に向けた組織的な取組
 - ・ 教育相談の充実とSC、SSW等との効果的な連携
 - ・ 情報モラルに関する指導の充実

健やかな体

進んで運動し

体力の向上と健康づくりに励む子ども

- 進んで運動に取り組む態度の育成
 - ・ 運動の質の維持・向上を図り、運動の楽しさや喜びを実感させる工夫
 - ・ 子ども一人一人の運動量が十分に確保された授業の工夫
- 体力向上のための組織的な取組
 - ・ 子どもが主体的に体力向上に取り組む体力向上推進計画の改善
 - ・ 業間活動や部活動等の体育的活動の充実
- 健康で安全な生活の実践につながる指導の充実
 - ・ 身近な問題を取り入れた保健・安全指導の工夫
 - ・ 望ましい食習慣を育成するための食育の推進
 - ・ 自ら考え行動できる放射線・防災教育の推進

学級・学習集団づくり

「認め合い・励まし合い・磨き合い」

目標に向かって協力しながら、粘り強く
取り組む学級・学習集団

互いに切磋琢磨し、向上心をもつて
ともに励む学級・学習集団

幼児教育の充実

主体的・対話的で深い学びを実現する保育の展開

- 主体的・対話的で深い学びを実現する保育の展開
 - ・ 多様な体験が及ぼせる教材の工夫
 - ・ 試行錯誤や考える過程の重視
 - ・ 人との関わりが深まる活動の充実

発達時期にふさわしい指導計画の作成

- 発達時期にふさわしい指導計画の作成
 - ・ 長期的・短期的に見通しをもった指導計画の作成
 - ・ 各年齢の目指す子どもの姿の設定
 - ・ 子どもの意欲や興味・継続性のある活動の設定

全教職員による校(園)内支援体制の充実

- 全教職員による校(園)内支援体制の充実
 - ・ 特別支援教育コーディネーターを中心とした実効的な支援体制づくり
 - ・ 校内研修の活性化
 - ・ エンバーサルデザイン視点を生かした環境設定・指導の工夫
 - ・ 交流及び共同学習の推進

特別支援教育の充実

家庭や地域社会、関係機関との連携

- 地域におけるインクルーシブ教育システムの推進
 - ・ 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用
 - ・ 進学時の引き継ぎ体制の充実
 - ・ 本人、保護者との合意形成に基づく合理的配慮の提供
 - ・ 関係機関との連携、地域支援センター(特別支援学校に設置)の活用
- 学校と家庭との連携を強化し家庭の教育力向上を図るための、PTA活動の充実
- 地域全体で子どもたちを教養育てるための、社会教育関係事業(地域学校協働活動事業等)を活用した活動の推進
- 子どもが主体的な学びを促すための、関係機関の役割の理解と地域人材、NPO、企業、公民館、公共図書館等の施設を活用した活動の推進
- 学校課題の解決を図るための、関係機関との連携を促すコーディネート力の向上